

韮崎市第8次総合計画策定に係る
第2回市民ワークショップ開催報告書

令和8年6月

韮崎市財務政策課

1 市民ワークショップの概要

目的

- 韮崎市の最上位計画となる「韮崎市第8次総合計画」の策定に向けて、計画満了年の2034年(令和16年)の未来像について市民の皆さんの意見を集める場として開催しました。
- 本市の生活環境や各種施策に対する意見・課題や新たなアイデア・提案など、市民目線からの生の声を集め、関係部署へのフィードバックや「官民ワークショップ」に反映しながら計画策定につなげることを目的としています。



開催日程

開催日	テーマ	開催場所	参加人数
令和7年12月 23日(火) 19:00～21:00	<u>韮崎市の理想の未来づくりワークショップ(市民対象)</u> ・今の韮崎市のすきなところ、困り事 ・理想の未来実現に向けたキーワード ・10年後の理想の韮崎市は「～なまち」 ベスト3	ニコリ3階 会議室	21人
令和8年 5月 26日(火) 19:00～21:00	<u>理想の未来を実現するプロジェクトを具現化しよう(市民・市職員対象)</u> ・第1回の振り返り(課題、将来像)の紹介 ・第1回の内容を踏まえて、重点テーマを提示し、各テーマに分かれて取組を検討して、重要なプロジェクトを提案	ニコリ3階 多目的ホール	17人
↓今後のワークショップ予定↓			
令和8年6月頃予定	<u>第3回 プロジェクトの実現に向けたプロセスを考えよう(市民・市職員対象)</u> ・実現性のある重点プロジェクトを考えよう！ ・プロジェクトごとの推進体制、役割分担、プロセスについて考えよう！	-	-

参加者

市民ワークショップの参加者は、以下のメンバーによって構成されました。

- 公募市民
- 総合計画策定委員会 委員



当日の流れ

第1回振り返り・計画の検討状況説明

- 市のいいところ・困りごとやスローガンなど第1回の振り返りについて、事務局から説明

- 第1回開催後の総合計画検討状況について情報共有

①プロジェクトの提案

- 公民連携で進める重点プロジェクトについて、テーマごとにテーブルで意見を出し合った。

【プロジェクトテーマ】

- A:「住みたい」を叶える移住実現プロジェクト
- B:「Made in Nirasaki」魅力創出プロジェクト
- C:「顔が見える」地域コミュニティ形成プロジェクト
- D:心身いきいき「ウェルネスシティ」プロジェクト

今やっていること、将来やりたいこと(何を?どこで?)		
内容	何を	どこで
今やっていること		
将来やりたいこと		

②ワールドカフェ・とりまとめ

- ワールドカフェ方式にて他のテーブルを巡り、アイデアを出し合いながらどんな取組をするか意見交換を行った。



- 最初のテーブルに戻り、他チームからの意見を踏まえ、チームの意見を取りまとめた。

最終的な取組:プロジェクト(3つまで)	
プロジェクト名	
プロジェクトの目的	
プロジェクトの取組	

全体発表

- 班ごとに話し合った内容について発表を行った。



2 市民ワークショップの結果

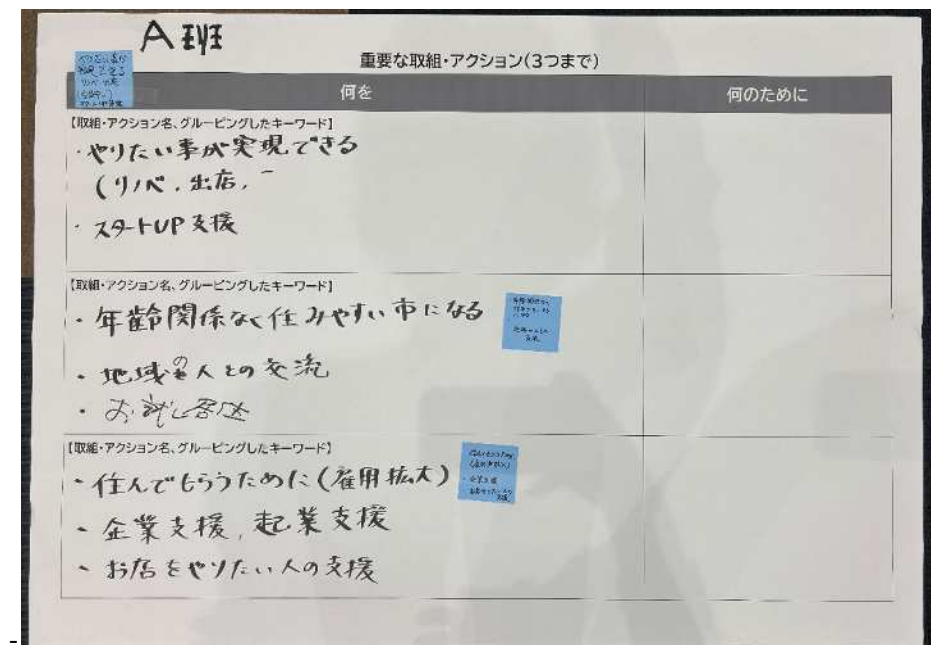
A 班:「住みたい」を叶える移住実現プロジェクト

①アイデアシート

何を		何のために
今やっていること	▪ 神社の森の整備 ▪ お祭りを通して、地域の人と文化交流	▪ 実際に中心市街地に住むことができる。 ▪ お店を出すとか、住むとか、人と人の関わりが増えると良い。
	▪ 移住相談会 ▪ 商店街に住む ▪ オープンファクトリー ▪ まちゼミ ▪ 宿泊事業(ガイドホテル) ▪ 空き店舗 不動産紹介 ▪ 親の会(不登校) ▪ 農振除外 住宅地確保	
やってみたい・やりたいこと	▪ お店を経営する	▪ 大きな企業が地域の起業を支援するという話題性が、次の起業や定住を生むのではないか。
	▪ 企業との連携 ▪ 大企業とのコラボ ▪ 企業誘致	
	▪ 夏期には葦崎の空地利用 期間移住 ▪ お試し居住者、新たな居住者 ← 地域で手伝う BBQ をやるとか接点をつくる ▪ まち案内ガイド ▪ 隣近所の人達が声をかけあって子育てができる住宅団地の建設 ▪ 創業支援のためのコワーキングスペースや交流の場がある複合ビルづくり ▪ 地域の人々と交流できる場をもうけたい ▪ 先住者と移住者を取り持つご意見番	▪ 既存の住民と新しい住民の接点を増やす。地域ぐるみで関係性を創る。
	▪ 空き家バンク × 近くの住民と一緒に手伝い顔見知りになる ▪ インスタ映えするオシャレな店を増やしたい ▪ 農振除外 住宅地確保 ▪ 移住支援のための補助金 ▪ 山がきれいに見える住宅の建設 ▪ 住みたいと思う自然の充実 ▪ 葦崎の良さを知ってもらう「〇〇が魅力」← 希望によって変わる ▪ 街と自然が両方ある！ちょうど良い	

②とりまとめ

重要な取組・アクション	何をする	何のために
やりたいことが実現できるまちづくり支援	リノベーションによる出店、スタートアップ支援など、葦崎で挑戦したい人を後押しする仕組みをつくる。	移住希望者や若者、市内外のプレイヤーが「葦崎ならやりたいことができる」と感じられる環境をつくるため。
地域の人と移住者が自然に交流できる仕組みづくり	年齢に関係なく住みやすいまちを目指し、地域住民と移住者が関わる機会をつくる。	葦崎には、もともと多様な人々が交流している良さがあるため、それを活かし、移住者と地域住民が一緒に関われる仕組みをつくる。例えば、お試し居住などを通じて、移住希望者が地域の人と自然に関わる機会を生み出す。
住み続けるための雇用拡大支援	雇用拡大、企業支援、起業支援、お店をやりたい人への支援を進める。	企業や地域で挑戦したい人を支援することで、働く人が「葦崎で暮らし続けたい」と感じられる環境をつくるため。



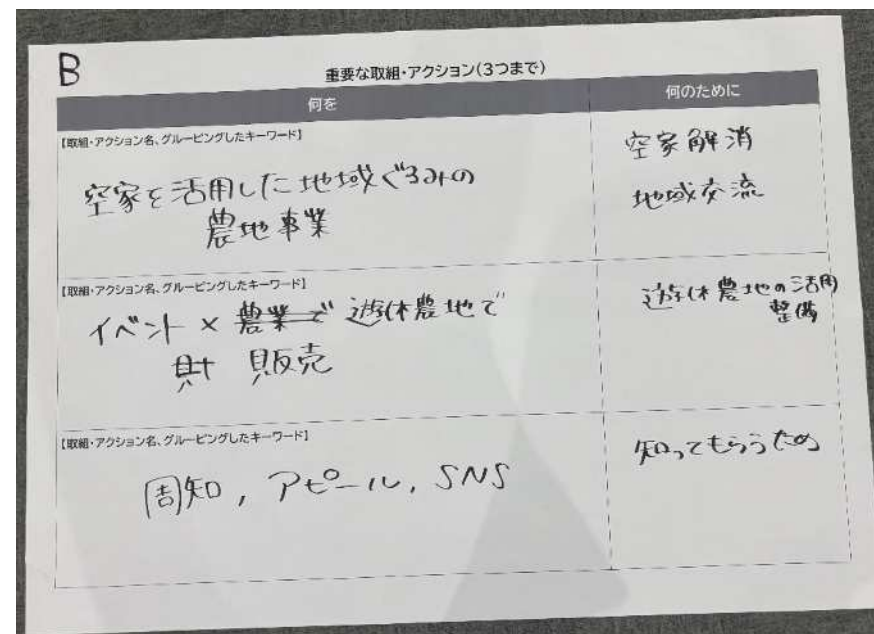
B 班:「Made in Nirasaki」魅力創出プロジェクト

①アイデアシート

何を		何のために
今やっていること	▪ ホタルの見守りや、場所の整備 ▪ 花火大会での火の消火活動 ▪ 窓口対応でお客様の話(意見)を直接聞く。(聞ける) ▪ ファーム伏見 将来的に若者創成でき期待できると思った。農業者が将来まで続く。 ▪ 議会報告会の席で葦崎の魅力提案したところです。 ▪ 農業で米、長ネギを作ってます。農作業の受託をやってます。	
やってみたい・やりたいこと	▪ 好きな事、得意なことが実現しやすい町であってほしい ▪ SNS 等でアピール ▪ 富士山を生かした観光事業を考える ▪ 実際に訪れやすい交通整備 ▪ お祭りやイベントをとおして、商品を出していく ▪ 福祉祭のような大きなイベントで販売 ▪ 観光と農業を組み合わせた事業を考える ▪ 耕作放棄地が多いので、圃場整備をすすめてほしい ▪ 空家が消える為、農業のお手伝いをするのに活用 ▪ 農地と居住地の住むわけをやってみたい	▪ 自給自足 ▪ 収入につながる

②とりまとめ

重要な取組・アクション	何をする	何のために
空き家を活用した地域ぐるみの農地事業	空き家や遊休農地を活用し、地域住民を巻き込みながら、農業や地域資源を活かした取組を行う。	空き家の解消や遊休農地の活用・整備につなげるため。個人単位では難しい面もあるため、地域ぐるみで農地の活用や管理に取り組む。
遊休農地でイベント×販売	地域ぐるみで作った農産物や加工品などを、イベントや誘致事業の場で販売する。農業とイベントを組み合わせ、来訪者や地域住民が交流できる機会をつくる。	農業とイベントを組み合わせ、来訪者や地域住民が交流できる機会をつくるため。また、遊休農地が多く存在していることから、その活用や整備につなげるため。
SNS を用いたアピール・周知	地域で行っている取組やイベント、販売情報などを、SNS や各種媒体を活用して発信する。	実際に行っている取組については十分に伝わりづらいので、PR することで多くの人に知ってもらう。特に、若い世代や市外の人に向けては、SNS 等の媒体を活用して効果的に発信する。



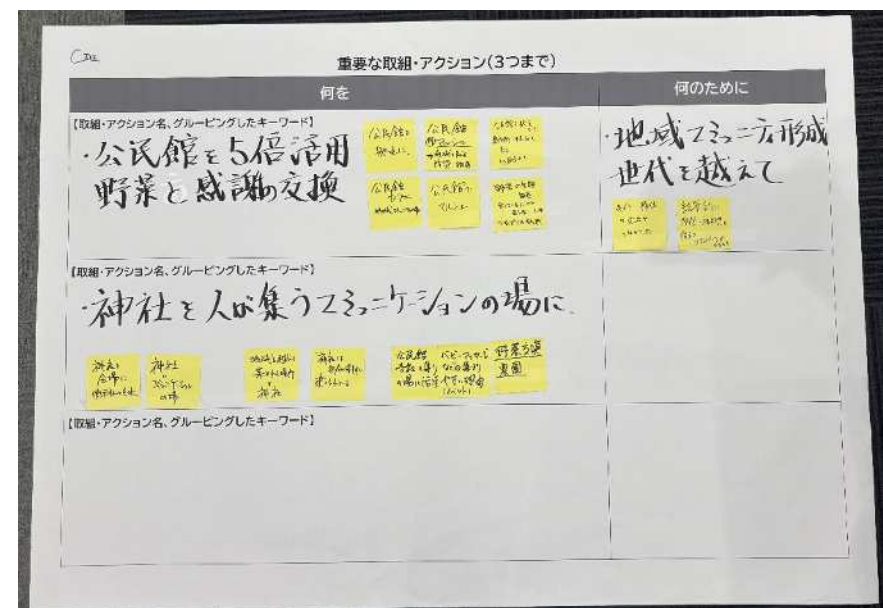
C 班:「顔が見える」地域コミュニティ形成プロジェクト

①アイデアシート

何を		何のために
今やっていること	▪ (明野)朝市 ▪ 団体活動 ▪ 葦崎駅前で飲食店 ▪ 目的やメリットをすることで人が集まる	▪ 目的やメリットをすることで人が集まる ▪ 自治会への加入・未加入？
やってみたい・やりたいこと	▪ 三世代交流会 子供、親、祖父母 ▪ 世代を越えた「部活」 ▪ わらじを教える ▪ 「虫送り」中条まだやってる ▪ 地域行事 三世代交流 「虫おくり」中田町 ▪ 若い人たち「めんどくさい」→目的やメリットを感じられれば参加？ ▪ 地域のおまつり 役をすることで、顔がつながる ▪ コロナ前の福祉祭り→地域の人が集まるきっかけ ▪ (やってた)市民農園プロジェクト ▪ 自給自足 → 収入につながることで、顔もつながる ▪ 拠点に目的をもたせることで、気持ちの近いコミュニティが生まれる	▪ 各地域にある活動団体同士の連携 ▪ 町内毎の垣根をなくす ▪ 旧葦崎町の横のつながりの弱さ ▪ ベビーマッサージ←ツールがあるから集える、話せる(要目的) ▪ 移住者がコミュニティーに入りにくい

②とりまとめ

重要な取組・アクション	何をする	何のために
公民館を5倍活用 野菜と感謝の交換	公民館をこれまで以上の5～10倍活用し、地域住民が集まるイベントや交流の場をつくる。家庭で作った野菜の持ち寄り・お裾分け、公民館カフェ、野菜の受け渡し場所などとして活用する。	地域の中で世代間交流や住民同士のつながりを生み出すため。また、余った野菜などを地域内で共有することで、支え合いや感謝が生まれる関係性をつくるため。
神社を人が集うコミュニケーションの場に	神社を24時間365日開かれた場所として、人が集まるコミュニケーションの場として活用する。祭りや地域行事だけでなく、日常的に地域住民が顔を合わせ、話ができる場として位置づける。	神社を地域コミュニティの場としてさらに活用することで、神社関係者にも喜んでいただきながら、地域住民同士のつながりを生み出すため。こうした交流を通じて、地域コミュニティの形成を促進し、葦崎市をより明るいまちにしていく。



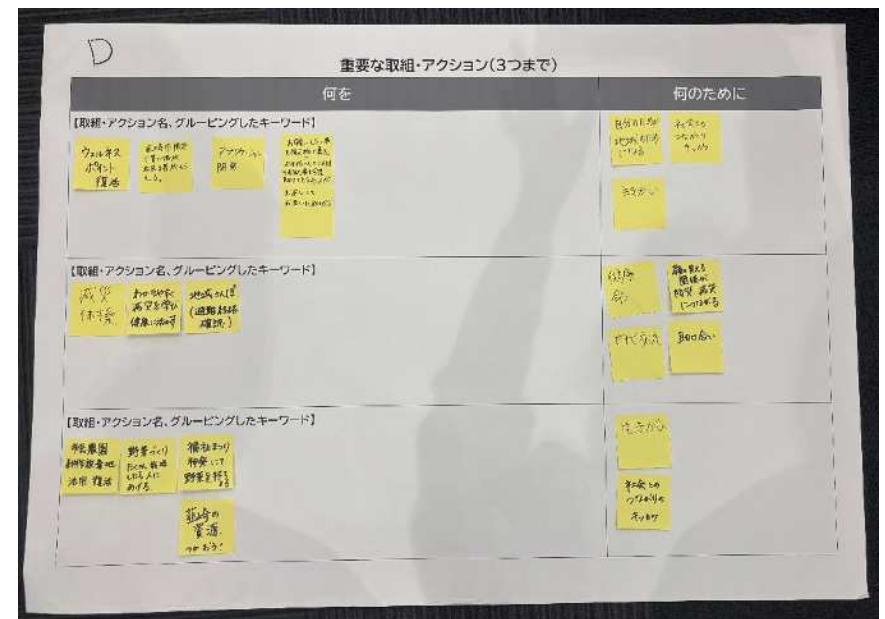
D 班:心身いきいき「ウェルネスシティ」プロジェクト

①アイデアシート

何を		何のために
今やっていること	▪ ヤマケンカップ ▪ 葦崎オーガニック ▪ 葦崎ゆらし隊(減災教育)	▪ カラダに誠実に、ココロにごきげんを ▪ 市民農園
やってみたい・やりたいこと	▪ 野菜× ○○○(パン作りなど)を予定している ▪ 全世代 子供も高齢者もヤマケンカップ ▪ 葦崎アリーナ もっと活用 ▪ 「ほめほめワーク」をして心の健康 ▪ ウェルネスポイント復活→葦崎市で買物する券がもらえる ▪ スマートウォッチで健康管理 ▪ 葦崎市で市民農園復活プロジェクト ▪ ウェルネス特区(農地に特化) ▪ ワインぶどう ぶどう もも 栽培 ▪ 耕作放棄地を活用して農業→健康ポイント ▪ 野菜を食する日に出かけて行く催し あっちこっちで催し ▪ 減災体操 ▪ 福祉まつりの復活 野菜 etc の販売 ▪ お神楽 野菜まき	▪ 生きがい ▪ 社会とのつながり きっかけ ▪ 今いる市民の為 健康、生きがいを創出してほしい

②とりまとめ

重要な取組・アクション	何をする	何のために
ウェルネスポイントの復活	- 健康づくりに取り組むとポイントが貯まり、市内で使える商品券等に交換できる仕組みを再構築する。 - アプリ等を活用し、草取りや困りごとなどを世代間で助け合える仕組みをつくる。	- 生きがいや社会とのつながりを生み出すため。 「自分のため」の取組が「地域のため」にもつながる仕組みとするため。 - 困りごとを高齢者など誰かが担うことで、さまざまな世代が助け合える関係をつくるため。
減災体操	避難訓練の内容を見直し、子どもから高齢者まで、災害時にどのような行動や姿勢を取ることが安全なのかを分かりやすく伝える。	- 防災・減災を考えるきっかけをつくるため。 - 避難経路の確認や地域での散歩を通じて、世代間交流や健康づくりにもつなげるため。
市民農園・耕作放棄地活用	- 現在使われていない市民農園や耕作放棄地を復活・活用し、地域住民で利用できる仕組みをつくる。 - 例えば、市が農地をまとめて管理し、利用希望者に貸し出すような取組を検討し、高齢者などが作った野菜を若い世代や地域住民に配布・交換できる場をつくる。	- 市内農地や野菜などの地域資源を活かし、住民同士の交流を生み出すため。 - 高齢者が作った野菜を地域で分かち合うことで、世代間交流や生きがいづくりにつなげるため。 - 市民農園での活動や野菜の提供・交流をウェルネスポイント等と連動させることで、健康づくりや地域参加を促進するため。



3 参加者の感想

感想	言いそびれたこと・今後の要望など
▪ 自分だけで思っているだけではなくて、いろいろな世代の方とのコミュニケーション、意見交換ができる場が改めて大切であると感じた。具体的にもなりやすいし、仕事内容によっても交流があり実現しやすくなるのでは、と思った。 ▪ はじめは不安でしたが、話をしたり聞いたりしていろいろ勉強になりました！いろいろな人がいて楽しかったです。 ▪ 最初は、何が言えるのか心配していたが様々な事が出て良かった。勉強になりました。 ▪ 色々な方々と交流、ワークを行ったことで自分が知りえない、発想できないような事を知ることができて良かったです。 ▪ 実現できるかいいと思いました(ウェルネスポイント)。人が動くきっかけづくりは大切。 ▪ ありがとうございました。 ▪ 別々のテーマで話し合ったのに、題案内容が同じになったのはおもしろいと思った。人によって視点が違うのも興味深かった。 ▪ ムズかしいテーマでしたが、深掘りしていきたいと思いました。全体的に農地活用がとりあげられていたのが印象的でした。 ▪ いろいろな方とお話しできて、様々な意見が聞けてとても勉強になりました。野菜がどの班も多く意見が出ていたので、それぞれ活用できる何かイベントができればいいと思いました。 ▪ 各班への移動しての意見交換は良かったです。 ▪ 住むことと、作ることが共生している町であると感じた。 ▪ 前向きな気持ちで楽しく参加できました。様々な方と会話ができて、葦崎の魅力の根底はコレだと思いました。明るい未来に向けて、一個人としても活動したいと思います。 ▪ 参加者の皆さんの熱意が感じられました。 ▪ 事前にテーマが分かっていると、情報を集められたかと思われます。 ▪ 15分での移動は、少々忙しい印象でした。 ▪ グループワーク、なかなか発表できなくて申し訳ございません。いろんな立場、属性の方々の想いをまとめるのは本当に大変ですね。皆さまも無理せず頑張ってください。 ▪ いろいろな方と話すことでいろいろな意見が出てますます葦崎を好きになれた気がします。もっとたくさんの市民がこういう話を自然とできればいいと思う。小学校や中学校でこういう会ができれば葦崎愛が生まれると思う。	▪ 商品開発を飲食店などと考える。 ▪ 企業間の交流の催しを開く。誰でも参加可能で葦崎市、子供たちを育成していく。魅力ある市をつくる、つくれる。 ▪ 過去、実際に行っていた施策が、どのような理由で実施されなくなったのかを知りたかったです。 ▪ メリットがわかりやすいと人は動くのでは？ ▪ 次回も楽しみにしております。 ▪ コミュニケーションにネガティブな人の意見も聞いてみたい。 ▪ もう少し、時間をかけて深堀できるような取り組み方ができると良いです。ありがとうございました。 ▪ 地域の様々な場所を活用していくことが良いと思います。 ▪ 葦崎市福祉祭など、大きなワイワイガヤガヤできるイベントが少なくなっている。(地域のつながりを小さな公民館分館などで行うことも大事だが)市全体で行うようなイベントがほしい(かしこまったものではなく)。 ▪ 小学校を、もっと、地域コミュニティの場として活用できたら！ ▪ 私の課題ですが、市に求めるコトと私ができるコト、やりたいコトが一致した場合、自分で解決してしまいたくなります。 ▪ 人とのふれあいやつながりが心身の健康につながります！そして人とのつながりが減災につながりみんなの命を守る共助の力につながります！



会場全体の様子



各班のワークの様子



各班の発表の様子